

第 69 回滋人教大会レポート

第 3 分科会（人権問題に関する学習・啓発）

ジェンダー平等プログラムのとりくみについて

1, 私たちの団体『ガールスカウト』について

◆団体の概要

- ・ 1910 年にイギリスで発祥、日本では 1920 年に始まる
- ・ 国籍・人種・宗教の違いを超え、現在 153 の国と地域で、約 1080 万人の会員が活動
- ・ 世界最大の少女と女性のための団体

◆わたしたちが大切にしていること

- ・ ビジョン：【すべての少女と女性が自分らしく生きられる社会】をめざして行動する女性を育てる
- ・ 一人一人の少女が、
【最大限にそれぞれの可能性を最大限に伸ばしていくことができる世界の実現】を目指している
- ・ 周りの人々と社会に対して良い変化を起こしていくことができるような【人格形成】を活動の目的としている。

↓ これらの実現のために

- 料理やハンドクラフト、それぞれの興味を深める活動、募金活動、清掃活動、施設訪問、キャンプなどの野外活動等々、多岐にわたる活動を行っている
- ・ 活動の理念【やくそくとおきて】では、スカウトの精神、心について言及
(自分と同じように周りの人を大切にし、その幸福のために尽くす心を持つことの大切さ、ひとの喜びを自分の喜びにする力を養うことは、自分自身の幸福にも繋がる)

↓

スカウト活動は「誰一人取り残さない」SDGs の活動に 100 年以上前から取り組んでいると言える

- ・ 現在は、世界最大の女性の団体として「私たちこそが取り組むべき」と考え
【SDGs 5 ジェンダー平等を目指す】活動に特に積極的に取り組んでいる。
- ・ ジェンダーの平等を実現することができれば、性別に関係なく互いを尊重し合う人間関係を推進し一人ひとりが可能性を最大限に発揮できるようになると考え、様々なプログラムを展開。

※何故、ジェンダー平等を謳いながら女子だけで活動するのか？

参照：冊子「女の子はもっと伸びる」（調査結果）

- ・ 女子のみの環境のほうが、異性の目を気にせず、性別による役割分担にも縛られることなく安心して様々なことに挑戦することができ、一人一人の可能性を伸ばすことができる
- ・ 女の子だけの環境を作り出すことにより、挑戦の機会を増やして自己肯定感を高める機会とすることができる。

↓

少女たちが社会に出て活躍できる力を身につけることができる。

2, 【ジェンダー平等バッジプログラム】について

◆【バッジプログラム】とは

- ・ 少女一人一人が活動に目的をもって取り組み、それをやり遂げたことをあかしするしるしとして布製バッジを授与するもの
- ・ 活動の内容と同じく、その種類は多岐にわたる。
- ・ 期間限定のもの（オリンピック）、STEM 教育に関するものなど、常に見直しがされている。
- ・ ジェンダー平等（GE）バッジはその中のひとつ

◆ジェンダー平等バッジプログラムで少女が取り組んだプログラム

- 大切な自分…自分にも他者にもパーソナルスペースがあり、それは尊重されるものであることを自らの身体を触ってみるゲーム、絵本などを使いわかりやすく説明
- イヤだって言ってもいい
 - …イヤな時には「イヤ」と言うことができることを知る、実際に口に出す練習をする
- 秘密のルール
 - …「よい秘密」と、「危ない秘密」の存在を知る
 - 誰かが傷ついたり苦しんでいたりする場合は、誰に話したらよいかを考える
- ジェンダーの思い込み →参加者の方に○×で問いかけをする
 - …思い込みと事実を見分けることを知る
 - 社会の中のジェンダーに関する思い込みを見つげられるようになる

☆どのプログラムでも少女たちの反応は概ね良好。こちらがねらいとすることを、抵抗もなくすんなりと受け入れ、特に強い疑問を感じることはないように見受けられた。

◆リーダー養成研修の実施

- ・これらのプログラムは、研修を受講したリーダーが実施できる、としている。
(心の傷などに触れることもあり、指導者には様々な知識や心の準備が必要であるため)
- ・そもそも、ジェンダー問題とは？というところから始まり、子どもたちが取り組むプログラムについて、どのような内容をどんなねらいを持って取り組むか？など、多岐にわたる内容の研修を受講するとこのプログラムを提供することができる。
- ・これらの研修の際、受講している成人が、今まで当たり前だと思っていた感覚が、実はジェンダーバイアスだったということに気づくという場面が多々見受けられた。
- ・「それはジェンダーバイアスである」と言われても、すぐには受け入れられず、長い期間を経て積み重ねてきた価値観や「これで当然」という感覚を変えていくことの困難さを痛感した。



ジェンダー平等プログラムが必要なのは、大人ではないか（特に年長者）

3, 私たちの気づきと展望

- ・ジェンダー問題は構造的である。
直接的差別や暴力、中には犯罪となるものは、ジェンダー不平等という【構造的差別や暴力】の中の氷山の一角にすぎない。
- ・これらの構造を支えてしまっているのが、私たちの生活の中のちょっとした発言や返答など、文化的な差別や暴力であることを、私たちはもっと意識しなければならない。
- ・変わらなければならないのは、わたしたち大人自身である。
- ・私たちガールスカウトは、少女たちが自分たちの社会を良くするため声を上げることの大切さや、社会に向け発信できる力をつける活動にも積極的に取り組んでおり、また、指導者もリーダー資格を更新するためには研修を継続して受ける必要があり、「常に学び続ける」という姿勢を守っている。
- ・これからも、ビジョン【「すべての少女と女性が自分らしく生きられる社会」をめざして行動する女性を育てる】を達成するために、この社会に、さまざまなよい変化をもたらすことができる少女と女性を育てていきたい。



それが**ガールスカウト**です。